



学校法人
浪速学院
<http://www.naniwa.ed.jp/>

浪速高等学校
浪速中学校

本校の歴史その22:「御陵参拝」

No.31 木村理事長・学院長 平成23年度公式メッセージ
(平成23年8月20日アップ)



本校の歴史その22
「御陵参拝」







- ・ ブログ「本校の歴史:20」において「伊勢修養学舎の歴史」、ブログ21において「学院神社の栄枯盛衰」について記した。特にこの二つについては反響も大きかった。自分でも力を入れて書いたもので、受け止めて貰えればこれほど嬉しいことはない。
- ・ 又ボツボツ本校の歴史探索を再開したいと思う。このテーマで書くときは結構気を使い時間もかかるのである。間違っってはならないからだ。従って連続では書けないから間が空くのである。
- ・ これらのブログは本校で働いてくれる教職員のために書いているのであるが、ある学年主任の先生は学院神社の栄枯盛衰に感動したと言ってくれていた。「案外自分は勤務している学校の歴史を知らなかった」とも言っていた。素直な感覚で実に宜しい。
- ・ 私はその内にこの「本校の歴史シリーズ」を本校の「教職員必読の書」にすべく小冊子にまとめ来年度からスタートする「新校舎建設と同時進行で進む90年史の編集」の複線本とすることを考えている。
- ・ 自分の勤めている学校の歴史を是非深く知って欲しいのだ。そうすれば「いい加減なことは出来なくなる」だろうというのが私の思いである。それが「歴史に学ぶ」ということだ。「先人の努力に思いを致し新たなる道を切り開くのが今に生きている我々の仕事であり、責務」だ。
- ・ さて今回は「御陵参拝」について述べることに致したい。「神道教育の歴史」については又別途のブログにおいて述べる。私は卒業アルバムの末尾にある「学年史」を読み進めているうちにある事にすぐ気づいた。それは学校行事としての「御陵参拝」である。
- ・ 神社神道の学校として設立された本校の設置者は大阪府神社界の人々によって構成された財団法人大阪国学院である。それにすでに詳述しているが大阪府の行政当局も深く関わっていた。財団の理事長は大阪府の行政幹部が兼務していたくらいである。
- ・ 従って設立以来「建学の精神」は極めて明確であり、一言で言えば「浄明正直」「敬神崇祖」という神社界の根本義がそのまま「校是」になっている。大正12年に設立され翌年には初めての「伊勢大廟」参拝が始まった。これらのことは歴史20号に書いた。伊勢参拝以外に「神道教育に関する学校行事」は一体どのようなものがあったのだろうか。
- ・ 私は例によってアルバム最後の学年史から丹念に学校の動きを探っていった。その結果一つの特徴があることに気づいたのである。それは定期的に「御陵参拝」と言う行事であった。この時私は「なるほど」と得心すると同時に大いに感心したのである。

- ・ 例えば大正12年入学、昭和3年卒業の一期生の場合、3学年になった6月30日「御陵参拝応神天皇御陵方面」、9月30日「桃山御陵参拝」とある。4学年になると7月2日「御陵参拝京都東山方面」、9月30日「御陵参拝京都嵯峨野方面」と言う具合である。5学年になっても昭和2年のことであるが6月23日「御陵参拝神武帝陵」である。
- ・ 昭和4年卒業の二期生についても上記と同じようなタイミングで御陵参拝を行っている。中には日にちが数日異なったりしているがそれは時には学年単位での行動ということだろう。二期生が5学年になった時は昭和3年6月13日「醍醐方面の御陵参拝」、10月6日「奈良県三輪方面御陵参拝」とあった。
- ・ この御陵参拝のことが40年史「浪速高校40年」の中に記載されている。昭和38年6月29日に本校会議室で「座談会」が行われ、卒業生として6期生の木村さんと当時の本校理科の教諭であった加賀山先生(旧制中学13期生)が次のように述べられている。

木村: 思い出も多く、各春秋2回に御陵の参拝に行き、不参加ですと操行を「乙にする」というほど厳格なものでした。当時は軍事教練がうるさい時代でゲートルをつけ、かばんを肩に掛け、弁当持参で行きました。

加賀山: 其の事につき私は今、木村さんが言われたように春秋2回の遠足には御陵参拝をしましたが、戦後型が変わりまして1年生は伊勢の修養学舎で「みそぎ」を行いまして心身を清め同時に学校では各学年神道という学科を教えています。私達生徒のころは春秋2回の御陵参拝により一斉参拝等色々な作法を習いました。

- ・ 私は以上の記事を読んで「遠足として御陵参拝」を入れた当時の管理職や教員の考えに感心し感動している。日本の「格好の歴史教育」になっているのではないか。今や遠足という言葉は「校外学習」という言葉に変えられ、「生徒に媚を売っている」としか考えられないような行き先になっているところもある。
- ・ 神戸のチャイナタウンにおいて校外学習というが何を生徒に与えようとしているのか私には分からない。「神社神道の学校として校外学習は如何にあるべきか」を一度検討する必要を私は常々感じていただけに「御陵参拝」は「胸にストーン」と落ちたのである。
- ・ 一日の校外学習といえども其処にはある程度の思想や哲学があつてしかるべきであると私は考える。「御陵」や「近隣の神社」を参拝することは本校にとって十分に意味あることであると私は考えるのだ。
- ・ 勿論「現代に生きる今日的生徒」に御陵参拝は厳しいかもしれない。それは分かる。しかしだ。毎回毎回新しい行き先を考えては「教員が下見」をし、生徒を連れて行くやり方もポツポツ見直しても良い時期ではないか。
- ・ 高校1年、2年は年に2回、3年生は春のみの校外学習の機会であるが、卒業までに5回も機会がある。そのうち1、2回は御陵参拝と大きな神社を参拝する遠足にしても悪いことではなからう。
- ・ 私は遠足と言う校外学習を新しい時代に合わせるべく、又本校のアイデンティティに少しでも合致させるべく見直しの思いを強くしているのである。是非教職員の理解と強力を得たい。まず高校と中学の管理職並びに学年主任に答申させようと思う。
- ・ そういう観点から昨年初めて「山の辺の道」を歩く「耐寒行事」を始めた。三輪神社から石上神宮までの14キロを踏破するのである。ここは日本最古の古道であり、歴代天皇の御陵や古墳が多くなる。古代史の格好の勉強の対象である。
- ・ 「温故知新」とはこういうことではないか。まず歴史を知ることが重要だ。今神社仏閣は「パワースポット」として若者に人気の場所であるという。今から90年近く前の本校の先生方は「御陵参拝」という素晴らしいアイデアを実践しているのである。我々はこれを「蔵出し」して再構築しなければならない。